

昭和 47 年 度

# 地力保全基本調査成績書

十勝  
〔~~空知~~ 東部地域 池田町〕



北海道立十勝農業試験場

139

## 序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて充分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和47年度に行なつた9地域13市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和48年3月

北海道立中央農業試験場

場長 和田 忠 雄

## 調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になっている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壤断面調査および現地での営農状況は地方保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地方保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壤統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部第3課）による。
3. 土壤統および土壤区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部 長	森	哲 郎
土壤改良科	科 長	後 藤	計 二
	第1係長	小 林	莊 司
	研究職員	水 元	秀 彰
	"	伊 東	輝 行
	"	木 村	清 実
	"	松 原	一 栄
	第2係長	山 口	正 茂
	研究職員	小 林	忠 雄
	"	宮 脇	晴 市
	"	山 本	十 郎
	"	高 橋	晶 司
	"	上 坂	晃 二
	十勝農試	菊 地	長 昭
	"	関 谷	義 雄
	"	横 井	喜 三
	北見農試	秋 山	輝 義
	上川農試	野 崎	晃 郎
	"	土 居	純 一
	天北農試	奥 村	

1. 調査地域一覽

調査地域名	該当市町村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
十勝東部	豊頃町	351	8,290	0	0	351	8,290
	池田町	912	7,049	0	0	912	7,049
渡島噴火湾	八雲町	390	4,678	0	0	390	4,678
	長万部町	211	1,607	0	0	211	1,607
駒ヶ岳山麓	森町	251	2,154	0	0	251	2,154
十勝岳西山麓	旭市神楽町	1,941	2,142	0	0	1,941	2,142
	東神楽町	2,351	1,630	0	0	2,351	1,630
留 萌	苫前町	1,084	1,318	0	0	1,084	1,318
	羽幌町	1,300	1,229	0	0	1,300	1,229
天 塩	遠別町	937	1,804	0	0	937	1,804
石狩北部沿海	石狩町	3,627	1,958	0	0	3,627	1,958
稚 内	猿払村	0	1,636	0	0	0	1,636
十勝中部	芽室町	83	21,350	0	0	83	21,350

# 調査地区位置図



# 十勝東部地域 池田町

## 1 地区の概況

### 1) 位置及び調査面積

- (1) 位置 北海道中川郡池田町  
 (2) 調査面積

郡市町村名	農 地 面 積			既調査面積 (ha)	調査対象面積 (ha)
	畑 (ha)	水田 (ha)	計 (ha)		
中川郡池田町	7,049	912	7,961	0	7,049

### 2) 気 候

地域に、十勝川、利別川、十弗川などの河川が流れ、この流域は、気象的にも影響を受けている。太平洋岸から少し離れ、白糠、豊頃丘陵があるため、海霧の影響を受けることが少ない。降水量は十勝管内では少ない方に入る。冬期間の積雪量は一般的に少ない。

本地域を代表する気象観測とは言えないが、日本気象協会帯広支部発行の「十勝気象要覧」から池田を抜すいして示す。

#### 池田町月別気象

(昭和42年～46年の5ケ年平均)

	気 温 (℃)			降 水			日照時間 (時間)
	平均	最高平均	最低平均	総量 (mm)	最大日量 (mm/日)	降水日数 (日)	
1	-9.5	4.2	-24.3	49.2	26.2	5.8	192
2	-7.9	8.1	-24.1	45.2	21.8	6.0	216
3	-2.6	10.6	-19.3	58.4	29.2	7.0	254
4	1.2	20.3	-9.1	59.2	27.2	6.8	232
5	11.0	26.5	-1.1	90.6	27.6	9.8	237
6	14.6	29.6	2.0	99.6	36.6	8.6	241
7	18.7	32.7	6.3	71.2	24.8	9.4	244
8	19.6	30.8	9.5	99.6	26.6	9.6	201
9	15.3	27.8	1.6	79.8	25.0	9.8	194
10	9.3	22.8	-4.2	76.2	20.0	7.4	199
11	2.5	17.2	-13.7	45.0	19.4	6.8	166
12	-6.0	6.7	-23.0	44.8	14.6	7.4	165

(日本気象協会帯広支部「十勝気象要覧」より引用)

### 3) 土地条件

#### (1) 地 形

本地区は利別川が中央に流れ、東西に区分されている。河川に沿つては沖積低地となつているが、東西両岸には2つの洪積段丘が発達している。標高100 mに達する高い段丘は傾斜～緩傾斜を呈し、開析を受けているが、標高60 mの低いものは平坦地となつている。

#### (2) 地 質

各河川の流域は沖積地および泥炭地が形成されている。段丘の安定しているところには古いローム質火山灰および新期の火山灰がうすく堆積しているが、受蝕されているところは古期ローム質火山灰を欠き、洪積土の上に新期の火山灰をうすく堆積しているのみである。

#### (3) 侵蝕状況

台地は傾斜を呈している場合が多いので、春先の融雪、融凍に水蝕の発生がある。また、4月下旬から5月にかけての乾燥期に強風があるので表土の軽しようとあいまつて風蝕の発生を見る。また、6月～8月にかけての多雨時に一時的に水蝕の発生が認められる。

#### (4) 交 通

国道、道々が完備され、これより町道、農道が通じており、一部を除けば交通の便は良い方である。

### 4) 土地利用及び営農状況

#### (1) 農家戸数及人口(昭45)

##### (a) 農家戸数

総農家戸数	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家
857戸	608戸	168戸	81戸

##### (b) 農家人口

総 数			就 業 者 数		
計	男	女	計	男	女
4,369人	2,116人	2,253人	2,505人	1,206人	1,299人

#### (2) 土 地(昭45)

農用地総面積	田	畑	樹園地	採草放牧地
9,830 ha	1,715 ha	6,286 ha	20 ha	1,859 ha

1戸当平均農用地 9.35 ha

(3) 昭和45年度主要作物作付面積

作物	麦類	大豆	小豆	菜豆	雑穀	馬鈴薯	とうもろこし	てん菜	蔬菜果樹	飼料作物	その他
面積	ha 110	ha 350	ha 1,170	ha 1,130	ha 14	ha 305	ha 100	ha 925	ha 156	ha 2,265	ha 355

(4) 家畜飼養頭数 (昭45)

家畜	乳牛	肉牛	馬	豚	めん羊	にわとり
頭数	4,490	227	1,099	184	11	18,212

(5) トラクター台数 (昭45)

84台

以上の資料は十勝支庁調査によるもの。



## 2 土壤類型区分及び説明

### 1) 土壤統一覧及び土壤区一覧

#### (1) 土壤統一覧

土壤統名	色層序	腐植層序	礫、砂礫層を混在する砂層	酸化沈物	土性		堆積式	母材
					表土	次層		
昭栄	YR/YR	表層腐植層なし	なし	なし	壤質	壤質	風積	非固結火成岩
							洪積世堆積	非固結火成岩
常盤	YR/YR	表層多腐植層	なし	あり	壤質	壤質	風積	非固結火成岩
							洪積世堆積	非固結火成岩
様舞	YR/YR	表層多腐植層	なし	あり	強粘質	強粘質	風積	非固結火成岩
							洪積世堆積	非固結火成岩
清見	YR/YR	全層多腐植層	なし	あり	壤質	壤質	風積	非固結火成岩
							洪積世堆積	非固結火成岩
池田	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	壤質	壤質	風積	非固結火成岩
							水積	非固結水成岩
近牛	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	壤質	壤質	風積	非固結火成岩
							洪積世堆積	非固結火成岩
美加登	YR/YR	表層腐植層なし	なし	あり	粘質	強粘質	風積	非固結火成岩
							洪積世堆積	非固結火成岩
高島	YR/YR	"	なし	なし	壤質	壤質	水積	非固結水成岩
							水積	非固結水成岩
千代田	YR/YR	"	あり	なし	壤質	壤質	水積	非固結水成岩
							水積	非固結水成岩
大森	Y/Y	"	なし	あり	粘質	粘質	水積	非固結水成岩
							水積	非固結水成岩
川合	YR/YR	全層腐植層	なし	なし	粘質	粘質	水積	非固結水成岩
							水積	非固結水成岩
コタノ	YR/YR	表層腐植層なし	なし	あり	壤質	強粘質	水積	非固結水成岩
							水積	非固結水成岩
利別	YR/YR	"	あり	なし	粘質	礫質	水積	非固結水成岩
							水積	非固結水成岩
高島北	YR/YR	"	なし	あり	強粘質	砂質	水積	非固結水成岩
							水積	非固結水成岩
東台	YR/YR	表層腐植層	なし	あり	強粘質	強粘質	水積	非固結水成岩
							集積	ヨシ
青山	YR/YR	表層腐植層なし	なし	あり	粘質	-	水積	非固結水成岩
							集積	ヨシ

## (2) 土壤区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	畑 面 積 (ha)	備 考
昭 栄 - 昭 栄	fn   tse	7 4 0	
常 盤 - 常 盤	wfn   t	3 6 6	
様 舞 - 様 舞	wfn   tpase	3 5 0	
清 見 - 清 見	wfna   te	1 9 1	
池 田 - 池 田	wf   n	2 8 7	
近 牛 - 近 牛	fnse   twi	6 6 1	
美加登 - 美加登	twfi   nse	6 6 9	
高 島 - 高 島	pf	6 7 9	
千代田 - 千代田	gfnse  dpwa	6 2 9	
大 森 - 大 森	wn   fs	4 0 6	
川 合 - 川 合	w   pfa	9 4 7	
コタノロ - コタノロ	w   fae	4 2 2	
利 別 - 利 別	td   i   fae	4 1 4	
高島北 - 高島北	wfna   te	1 1 9	
東 台 - 東 台	pwn   tfa	2 5 5	
青 山 - 青 山	w  tfa  pne	5 2 5	

## 2) 土壌統別説明

昭 栄 統
-------

### (1) 土壌統の概説

#### A 土壌統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はLである。腐植含量8.79%、色は10YRで彩度2、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度15で疎。pH(H<sub>2</sub>O) 5.7、下層との境界判然である。

第2層は厚さ17cm内外、土性はSLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度2、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 6.0、下層との境界判然である。

第3層は厚さ13cm内外、土性はSLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度6、明度6である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度18で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.8、下層との境界判然である。

第4層は60cm以下、土性はSLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度2、明度6である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔含む、ち密度23で中、pH(H<sub>2</sub>O) 6.2である。

#### 代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑#60

第1層	0～20cm	腐植に富む、灰褐(10YR 3/2)のL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度15で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.7、層界判然。
第2層	20～37cm	腐植を欠き、黄褐(10YR 5/6)のSL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 6.0、層界判然。
第3層	37～60cm	腐植を欠き、黄褐(10YR 6/6)のSL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度18で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.8、層界漸変。
第4層	60cm～	腐植を欠き、灰褐(10YR 6/2)のSL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度23で中、pH(H <sub>2</sub> O) 6.2。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	5.5	0	13.4	37.5	35.5	13.7	L			5.10	0.41	12	8.79
2	20~37	10.3	0	32.9	50.3	10.5	6.2	SL			—	—	—	—
3	37~60	7.4	0	20.1	61.8	13.7	4.4	SL			—	—	—	—
4	60~	6.1	0	19.1	59.6	16.1	5.2	SL			—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.7	4.9	0.75	24.9	13.8	1.2	0.6	55.4	1,600	4.7
2	6.0	5.4	0.50	16.2	6.7	1.4	0.6	41.4	2,270	0.2
3	5.8	5.3	0.25	11.6	4.0	1.4	0.9	34.5	1,830	tr
4	6.2	5.2	0.25	8.7	2.4	0.5	0.6	27.6	1,700	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては清見統、様舞統があるが、水分環境、堆積様式、腐植層序が異なるので本統と区別される。

A-3 母材

非固結火成岩／非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積／洪積性堆積

B 地形

波状地形

C 気候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 817mm

D 植生および利用状況

主として、てん菜、馬鈴薯、菜豆が作付けられている。

E 農業上の留意事項

有機物の投入、塩基、磷酸の補給。

F 分布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 分	簡 略 分 級 式
昭 栄	Ⅲ f n Ⅱ t s e

② 土壤区分説明

昭 栄 - 昭 栄
-----------

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 厚 深 さ	表 土 土 層 的 難 易 量	耕 土 土 層 的 粘 着 性	(表 土 土 層 的 乾 燥 性 度 度)	(土 層 的 水 潤 肥 沃 性 度 度)	自 然 肥 沃 力	(固 定 力 中)	養 分 換 性 量	(置 換 性 量 否)	(有 効 態 量 否)	(微 酸 性 度 度)	障 害 的 有 害 性	(物 理 的 障 害 的 有 害 性)	災 害 的 危 險 度	(地 冠 水 利 害 的 危 險 度)	傾 斜 傾 斜 傾 斜	(自 然 傾 斜 傾 斜)	侵 入 傾 斜 傾 斜	(耐 風 蝕 性 度 度)	(耐 水 蝕 性 度 度)		
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	—	—	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ
t d g p			w		f		n			i		a		s				e				
簡略分級式 Ⅲ f n Ⅱ t s e																						

A 土壤区の特徴

この土壤区は昭栄統に属する。表土の厚さは20cm内外でやや深い。有効土層は100cm以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、砕土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態である。作土は酸度中、置換性石灰多、加里多、有効態磷酸多である。特殊な障害性なし。

B 植生および利用状況

主として、てん菜、馬鈴薯、菜豆が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

心土が不良なアロフエン質火山灰のため、有機物および適量の改良資材を施用して漸次深耕する。

D 分 布

北海道中川郡池田町

記 載 責 任 者 横 井 義 雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和47年3月31日

## 常 盤 統

### (1) 土壌統の概説

#### A 土壌統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、土性はSLである。腐植含量10.34%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度17で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.9、下層との境界判然である。

第2層は厚さ8cm内外、土性はLである。腐植欠き、色は10YRで彩度4、明度4である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 6.1、下層との境界判然である。

第3層は厚さ24cm内外、土性はCLである。腐植含量30.34%、色は10YRで彩度1、明度1である礫なく発達弱度の塊状、粒状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.5、下層との境界判然である。

第4層は厚さ13cm内外、土性SLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度8、明度6である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度21で中、pH(H<sub>2</sub>O) 4.7、下層との境界漸変である。

第5層は63cm以下、土性はCLである。腐植を欠き、色は2.5Yで彩度4、明度5である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、斑鉄あり、細小孔あり、ち密度21で中、pH(H<sub>2</sub>O) 5.8である。

#### 代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑1643

第1層	0～18cm	腐植に富む黒色(10YR2/2)のSL、礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度17疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.9、層界判然。
第2層	18～26cm	腐植を欠き、黄褐(10YR4/4)のL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 6.1、層界判然。
第3層	26～50cm	腐植土、黒色(10YR1/1)のCL、礫なく発達弱度の塊状、粒状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.5、層界判然。
第4層	50～63cm	腐植を欠き、黄褐(10YR6/8)のSL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度21で中、pH(H <sub>2</sub> O) 5.5、層界漸変。
第5層	63cm～	腐植を欠き、黄褐(2.5Y5/4)のCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、斑鉄あり、細小孔あり、ち密度21で中、pH(H <sub>2</sub> O) 5.8である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	2.9	0	8.3	57.3	20.7	13.7	SL			6.00	0.45	13	10.34
2	18~26	3.2	0	6.2	54.6	27.1	12.1	L			—	—	—	—
3	26~50	7.6	0	8.0	47.7	25.9	19.3	CL			17.60	0.87	20	30.34
4	50~63	7.8	0	14.8	63.5	16.9	4.8	SL			—	—	—	—
5	63~	8.7	0	—	—	—	—	—			—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.9	5.0	0.50	28.9	23.1	0.9	0.1	79.9	1,570	16.8
2	6.1	5.1	0.50	26.5	20.0	1.1	0.1	75.5	1,828	1.7
3	5.5	4.6	1.00	74.0	39.4	3.8	0.1	53.2	2,430	2.0
4	5.5	4.7	0.75	42.7	18.2	2.5	0.1	42.6	2,390	tr
5	5.8	5.0	0.50	26.6	9.6	1.4	0.1	36.1	2,190	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、様舞統があるが堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩/非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積/洪積世堆積

B 地 形

波状地形

C 気 候

年平均気温 5.7 °C 年降水量 817 mm

D 植生及び利用状況

主として、てん菜、馬鈴薯、菜豆、牧草が作付けられている。

E 農業上の留意事項

明渠、暗渠排水、塩基、磷酸の補給。

F 分 布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
常盤	Ⅲ w f n Ⅱ t

② 土壤区別説明

常 盤 — 常 盤
-----------

示性分級式 (畑)

土壤 生産 力可 能性 厚等 級	表効 土層 の厚 さ	表土 の粘 土性	耕起 の難 易	(表土 の乾 燥性)	(表土 の風 乾性)	(透保 湿度)	(自然 肥力)	(自保 肥力)	(固定 力)	(養分 状態)	(置換 性)	(有微 酸量)	(微酸 要素)	(障害 物質 の有 無)	(物理 的障 害)	(炎冠 水の 危険 度)	(傾斜 の危 険度)	(自傾 斜)	(人傾 斜)	(侵入 の傾 斜)	(耐水 風蝕 性)	(耐風 蝕性)	
	t	d	g	p		w		f		n				i	a		s					e	
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
簡略分級式		Ⅲ w f n Ⅱ t																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は常盤統に属する。表土の厚さは18cm内外でやや深い。有効土層は100cm以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土中、加里少、有効態酸多である。特殊な障害性なし。

B 植生及び利用状況

主として、てん菜、馬鈴薯、牧草が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

排水不良地であるため、明渠、暗渠による排水が必要である。また酸性を呈するのでその矯正も必要である。心土が不良であるので適量の改良資材を投入して漸次深耕する。

D 分 布

北海道中川郡池田町

記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和47年3月31日



# 様 舞 統

## (1) 土壌統の概説

### A 土壌統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ19cm内外、土性はLiCである。腐植含量10.69%、色は10YRで彩度1、明度2である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.3、下層との境界判然である。

第2層は厚さ5cm内外、土性はLiCである。腐植含量9.65%、色は10YRで彩度1、明度1である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.3、下層との境界判然である。

第3層は厚さ11cm内外、土性はLiCである。腐植含量6.90%、色は10YRで彩度2、明度5である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.2、下層との境界判然である。

第4層は厚さ33cm内外、土性はCLである腐植を欠き、色は10YRで彩度1、明度7である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、斑鉄あり、ち密度22で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.8、下層との境界漸変である。

第5層は、68cm以下、土性はCLである。腐植を欠き、色は5Yで彩度1、明度7である。礫なく均質連結状構造あり、細孔あり、斑鉄あり。

### 代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑No.63

第1層	0～19cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/1)のLiC、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.3、層界判然。
第2層	19～24cm	腐植に富む、黒色(10YR1/1)のLiC、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.3、層界判然。
第3層	24～35cm	腐植に富む、灰褐(10YR5/2)のLiC、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、層界判然。
第4層	35～68cm	腐植を欠き、灰褐(10YR7/1)のCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、斑鉄あり、ち密度22で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.8、層界漸変。
第5層	68cm～	腐植を欠き、灰色(5Y7/1)のCL、礫なく均質連結状構造あり、細孔あり、斑鉄あり。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~19	7.0	0	8.9	29.3	25.9	35.9	LiC			6.20	0.49	13	10.69
2	19~24	7.1	0	7.2	38.6	26.8	27.4	LiC			5.60	0.46	12	9.65
3	24~35	6.7	0	11.2	28.5	24.9	35.4	LiC			4.00	0.24	14	6.90
4	35~68	3.6	0	12.9	39.2	29.0	18.8	CL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.3	4.2	2.38	42.1	17.7	2.7	0.1	42.0	1,660	11.6
2	5.3	4.2	2.88	38.6	14.6	2.4	0.1	37.8	1,910	3.0
3	5.2	4.0	3.38	38.5	14.7	3.2	0.1	38.2	1,430	tr
4	5.8	4.0	2.63	15.7	6.5	2.8	0.1	41.4	910	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、昭栄統、清見統、近牛統があるが、昭栄統とは水分環境が、清見統とは堆積様式が、近牛統とは母材、腐植層序が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩 / 非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積 / 洪積世堆積

B 地 形

平 坦

C 気 候

年平均気温 5.7 °C      年降水量 817 mm

D 植生及び利用状況

主として、てん菜、牧草、馬鈴薯が作付けられている。

E 農業上の留意事項

遮断明渠、暗渠排水、酸性矯正、緑作帯の設置

F 分 布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横 井 義 雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土 壤 区 分	簡 略 分 級 式
様 舞	Ⅲ w f n Ⅱ t p a s e

② 土壤区別説明

様 舞 一 様 舞
-----------

示性分級式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	土	(透	(保	(湿	自	(保	(固	土	養	(置	(	(	(有	(微	(酸	障	(有	(物	災	(增	(地	傾	(自	(傾	(人	侵	(優	(耐	(耐	
壤	生	効	土	土	の	の	の	地	然			然			層	分	換	"	"	効	量		害	物	理	冠	す	べ	然	斜	為		水	風			
産	力	可	能	性	厚	含	難	土	着	硬	性	性	度	力	力	態	否				要	害	質	障	の	害	危	危	傾	傾	方	蝕	蝕				
力	可	能	性	厚	含	難	土	着	硬	性	性	度	力	力	態	否				要	害	質	障	の	害	危	危	傾	傾	方	蝕	蝕					
性	厚	含	難	土	着	硬	性	性	度	力	力	態	否							要	害	質	障	の	害	危	危	傾	傾	方	蝕	蝕					
等	深																			要	害	質	障	の	害	危	危	傾	傾	方	蝕	蝕					
級	さ	さ	量	易																要	害	質	障	の	害	危	危	傾	傾	方	蝕	蝕					
	t	d	g	p			w					f				n						i		a		s					e						
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	3	2	1	Ⅲ	3	2	3	Ⅲ	1	3	2	Ⅲ	2	1	3	1	2	2	Ⅱ	1	1	Ⅱ	2	1	Ⅱ	2	—	—	Ⅱ	2	1	1	
簡略分級式																																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は様舞統に属する。表土の厚さは19cm内外でやや深い。有効土層は100cm以上で深い。表土の土性は強粘質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰中、苦土多、加里少、有効態燐酸多である。特殊な障害性なし。

B 植生及び利用状況

主として、てん菜、牧草、馬鈴薯が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

心土に不透水層があるため、心土破碎を併用した明渠、暗渠排水が必要であり、伏流水を防ぐために遮断明渠も必要である。酸性を呈するため酸性矯正を行ない、塩基、りん酸の補給も忘れてはならない。

D 分 布

北海道中川郡池田町

記 載 責 任 者 横 井 義 雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和47年3月31日

## 清 見 統

### (1) 土壌統の概説

#### A 土壌統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ19cm内外、土性はLである。腐植含量15.52%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.3、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ6cm内外、土性はLである。腐植含量19.65%、色は10YRで彩度3、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H<sub>2</sub>O)4.9、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ49cm内外、土性はLiCである。腐植含量25.17%、色は10YRで彩度1、明度2である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H<sub>2</sub>O)4.7、下層との境界は判然である。

第4層は76cm以下、土性はCLである。腐植を欠き、色は7.5Yで彩度2、明度3である。礫なく均質連結状構造あり、小孔含む。

#### 代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑No.54

第1層	0~19cm	腐植に頗る富な、黒色(10YR2/2)のL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.3、層界判然。
第2層	19~27cm	腐植に頗る富む、黄褐色(10YR3/3)のL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O)4.9、層界判然。
第3層	27~76cm	腐植土、黒色(10YR2/1)のLiC、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H <sub>2</sub> O)4.7、層界判然。
第4層	76cm~	腐植を欠き、灰色(7.5Y3/2)のCL、礫なく均質連結状構造あり、小孔含む。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~19	6.7		10.7	43.0	32.7	13.6	L			9.00	0.66	14	15.52
2	19~27	8.2		3.6	38.5	41.9	15.9	L			11.40	0.69	17	19.65
3	27~76	11.7		0.3	18.9	41.2	39.6	LiC			14.60	0.72	20	25.17

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.3	4.2	5.00	22.7	12.9	1.4	0.4	5.68	1,580	25.2
2	4.9	4.0	9.38	40.1	7.6	1.1	0.2	19.0	2,040	4.8
3	4.7	3.8	5.38	82.8	36.0	5.2	0.7	43.5	1,789	0.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、昭栄統、様舞統があるが、昭栄統とは水分環境が、様舞統とは堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材

非固結火成岩 / 非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積 / 洪積世堆積

B 地形

緩傾斜

C 気候

年平均気温 5.7 °C      年降水量 817 mm

D 植生及び利用状況

主として、てん菜、牧草、馬鈴薯が作付けられている。

E 農業上の留意事項

明渠、暗渠排水、酸性矯正、塩基磷酸の施用

F 分布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 分	簡 略 分 級 式
清 見	Ⅲ w f n a Ⅱ t e

② 土壤区別説明

清 見 — 清 見
-----------

示性分級式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 厚 等 級	表 土 的 厚 深 さ	有 効 土 層 量	表 土 耕 起 難 易 性	耕 土 的 粘 着 性	(表 土 的 乾 硬 性)	(表 土 的 乾 濕 性)	土 透 透 性	(自 然 潤 沃 度)	(自 然 肥 力)	(固 定 力)	(土 層 塩 基 状 態)	置 換 性	(石 灰 含 量)	(苦 土 含 量)	(加 里 多 含 量)	(有 効 態 素)	(微 酸 性)	障 害 物 質 有 無 性	(物 理 的 障 害 性)	災 害 危 險 度	(地 冠 水 危 險 度)	(地 す べ り 危 險 度)	傾 斜 方 向	(自 然 傾 斜)	(傾 斜 度)	侵 入 傾 斜	(耐 風 蝕 性)	(耐 水 蝕 性)			
Ⅲ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅱ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅲ Ⅲ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ — — Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅰ	t	d	g	p		w		f		n						i		a		s							e				
簡略分級式 Ⅲ w f n a Ⅱ t e																															

A 土壤区の特徴

この土壤区は清見統に属する。表土の厚さは19cm内外でやや深い。有効土層は100cm以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、砕土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土多、加里多、有効態磷酸多である。特殊な障害性なし。

B 植生及び利用状況

主として、てん菜、牧草、馬鈴薯が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

排水不良であるので、明渠、暗渠による排水を行い伏流水を遮断する。強酸性を呈するため液性矯正を行い、塩基、磷酸の補給も必要である。

D 分 布

北海道中川郡池田町

記 載 責 任 者 横 井 義 雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和47年3月31日

## 池 田 統

### (1) 土壌統の概説

#### A 土壌統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ24cm内外、土性はLである。腐植含量9.65%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.2で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.8、下層との境界判然である。

第2層は厚さ8cm内外、土性はSLである。腐植含量8.45%、色は10YRで彩度2、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.0で中、pH(H<sub>2</sub>O) 6.3、下層との境界判然である。

第3層は厚さ25cm内外、土性はSLである。腐植含量9.14%、色は10YRで彩度2、明度3である。礫なく発達中度の粒状、弱度の塊状構造あり、細孔含む、ち密度1.8で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 6.3、下層との境界漸変である。

第4層は57cm以下、土性はLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度6、明度6である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度1.9で中、pH(H<sub>2</sub>O) 6.2である。

#### 代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑1680

第1層	0～24cm	腐植に富む、黒色(10YR 2/1)のL、礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.2で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.8、層界判然。
第2層	24～32cm	腐植に富む、灰褐(10YR 3/2)のSL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.0で中、pH(H <sub>2</sub> O) 6.3、層界判然。
第3層	32～57cm	腐植に富む、灰褐(10YR 3/2)のSL、礫なく発達中度の粒状、弱度の塊状構造あり、細孔含む、ち密度1.8で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 6.3、層界漸変。
第4層	57cm～	腐植を欠き、黄褐(10YR 6/6)のL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度1.9で中、pH(H <sub>2</sub> O) 6.2。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 精 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~24	4.7	0	11.1	45.6	30.3	13.0	L			5.60	0.49	11	9.65
2	24~32	8.3	0	11.1	62.8	18.9	7.2	SL			4.90	0.39	13	8.45
3	32~57	11.0	0	17.8	53.8	26.0	2.4	SL			5.30	0.42	13	9.14
4	57~	6.2	0	—							—	—		—

層位	p H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.8	5.0	0.50	3.09	23.9	0.1	0.3	77.3	1,600	8.6
2	6.3	5.4	0.25	28.8	28.9	2.6	0.1	100.3	2,190	0.8
3	6.3	5.4	0.25	32.7	27.0	1.8	0.7	82.6	2,530	tr
4	6.2	5.2	0.25	10.9	5.1	1.3	0.6	46.8	1,750	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、青山統、高島統があるが、青山統とは母材が、高島統とは水分環境、母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩／非固結火成岩

A-4 堆積様式

平 坦

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 817mm

D 植生及び利用状況

主として、てん菜、馬鈴薯、菜豆、麦類が作付けられている。

E 農業上の留意事項

明渠、暗渠排水、漸次深耕。

F 分 布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横 井 義 雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日





近 牛 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ23cm内外、土性はLである。腐植含量29.65%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度20で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.9、下層との境界判然である。

第2層は厚さ6cm内外、土性はLである。腐植含量9.31%、色は10YRで彩度3、明度3である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度21で中、pH(H<sub>2</sub>O)6.2、下層との境界判然である。

第3層は厚さ21cm内外、土性はSLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度6、明度4である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔含む。ち密度18で疎、pH(H<sub>2</sub>O)6.3、下層との境界判然である。

第4層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植含量2.24%、色は10YRで彩度4、明度3である。未風化細角礫あり、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔を含む、ち密度16で疎、下層との境界漸変である。

第5層は65cm以下、土性はLicである。腐植を欠き、色は10YRで彩度6、明度5である。未風化細角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度24で密、pH(H<sub>2</sub>O)5.6。

代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡也田町 試坑1648

第1層	0～23cm	腐植土、黒色(10YR2/2)のL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度20で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.9、層界判然。
第2層	23～29cm	腐植に富む、黄褐色(10YR3/3)のL、礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度21で中、pH(H <sub>2</sub> O)6.2、層界判然。
第3層	29～50cm	腐植を欠き、黄褐色(10YR4/6)のSL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔含む、ち密度18で疎、pH(H <sub>2</sub> O)6.3、層界判然。
第4層	50～65cm	腐植を含む、黄褐色(10YR3/4)のCL、未風化細角礫あり、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔を含む、ち密度16で疎、層界漸変である。
第5層	65cm～	腐植を欠き、黄褐色(10YR5/6)のLic、未風化細角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度24で密、pH(H <sub>2</sub> O)5.6。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~23	3.3		16.4	36.1	34.7	12.8	L			17.20	0.44	39	29.65
2	23~29	4.3		22.1	30.1	34.6	13.3	L			5.40	0.40	14	9.31
3	29~50	7.2		26.6	49.6	22.5	1.3	SL			—	—	—	—
4	50~65	5.8		17.0	33.6	26.2	23.2	CL			1.30	0.13	10	2.24
5	65~	5.2		20.0	29.1	17.0	33.9	LiC			—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.9	5.0	0.50	27.8	20.2	1.0	0.1	72.7	1,390	8.0
2	6.2	5.1	0.63	30.4	22.4	1.9	0.1	73.7	1,770	1.8
3	6.3	5.3	0.88	22.6	10.9	1.4	0.2	48.2	2,140	tr
4	5.9	4.8	0.50	19.3	8.5	3.4	2.0	44.0	1,570	tr
5	5.6	4.5	1.25	16.0	7.2	4.0	1.4	45.0	960	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては様舞統があるが、母材、堆積様式、腐植層序が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩／非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積／洪積世堆積

B 地 形

波状地形 傾斜。

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 817mm

D 植生及び利用状況

主として、牧草が作付けられている。

E 農業上の留意事項

緑作帯の設置、塩基、燐酸の補給。

F 分 布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 分	簡 略 分 級 式
近 牛	ⅢfnseⅡtwi

② 土壤区別説明

近 牛 - 近 牛
-----------

示性分級式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 の 耕 起 量	耕 起 土 層 の 粘 着 性	(表 土 の 乾 湿 性)	(表 土 の 乾 湿 性)	土 地 の 水 潤 沃 度	自 然 肥 力	(保 固 定 力)	(土 質 塩 基 状 態)	養 分 置 換 性	(置 換 性)	(有 効 加 里 酸 量)	(微 酸 性)	障 害 物 質 の 有 害 性	(物 理 的 障 害 無 性)	災 害 の 危 険 度	(地 す べ り の 危 険 度)	傾 斜 の 危 険 度	(傾 斜 方 向)	人 為 的 傾 斜	侵 蝕 性	(耐 水 蝕 性)	(耐 風 蝕 性)											
Ⅲ	I	I	I	1	1	1	Ⅱ	1	1	2	Ⅲ	1	2	1	Ⅲ	1	2	3	2	2	1	Ⅱ	1	2	I	1	1	Ⅲ	3	-	-	Ⅲ	2	2	1
簡略分級式		ⅢfnseⅡtwi																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は近牛統に属する。表土の厚さは2-3cm内外で深い。有効土層は100cm以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、砕土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態良好である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土中、加里少、有効態磷酸中である。特殊な障害性なし。

B 植生及び利用状況

主として牧草が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

傾斜を呈しているため保全耕作を行い、塩基、磷酸を補給する。

D 分 布

北海道中川郡池田町

記 載 責 任 者

横 井 義 雄 (北海道立十勝農業試験場)

日

附

昭和47年3月31日

# 美 加 登 統

## (1) 土壌統の概説

### A 土壌統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14cm内外、土性はCLである。腐植含量9.14%、色は10YRで彩度1、明度2である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.4、下層との境界判然である。

第2層は厚さ6cm内外、土性はLiCである。腐植含量0.9%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.1で中、pH(H<sub>2</sub>O) 4.8、下層との境界判然である。

第3層は20cm以下、土性はLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度1、明度7である。未風化細円礫含む、均質連結状構造あり、斑鉄あり、細孔あり、ち密度2.5で密、pH(H<sub>2</sub>O) 4.6である。

#### 代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑No.21

層位	厚さ (cm)	土性・特徴
第1層	0～14cm	腐植に富む、黒色(10YR2/1)のCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.4、層界判然。
第2層	14～20cm	腐植に富む、黒色(10YR2/2)のLiC、礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.1で中、pH(H <sub>2</sub> O) 4.8、層界判然。
第3層	20cm～	腐植を欠き、灰褐色(10YR7/1)のL、未風化細円礫含む、均質連結状構造あり、斑鉄あり、細孔あり、ち密度2.5で密、pH(H <sub>2</sub> O) 4.6。

#### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	礫含量 (重量%)	粒 径 組 成 (%)				土性	現地容積重 (g)	真比重	全炭素 (%)	全窒素 (%)	炭素率	腐植 (%)
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～14	2.7		7.2	39.2	34.6	19.1	CL			53.0	0.46	12	9.14
2	14～20	2.9		7.1	38.4	26.2	28.3	LiC			—	—	—	—
3	20～	1.9		23.5	35.0	27.9	13.5	L			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.4	5.1	0.50	26.2	16.9	3.0	0.9	64.5	1.240	22.0
2	4.8	4.1	3.50	23.3	11.7	1.8	0.2	50.2	1.250	5.8
3	4.6	3.6	10.25	15.1	5.8	2.9	0.1	38.4	83.0	0.8

#### A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、昭栄統、川合統があるが、昭栄統とは堆積様式、母材が川合統とは腐植層序、母材が異なるので本統と区別される。

#### A-3 母材

非固結火成岩／非固結火成岩

#### A-4 堆積様式

風積／洪積世堆積

#### B 地形

波状地形

#### C 気候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 817mm

#### D 植生及び利用状況

主として、てん菜、馬鈴薯、牧草が作付けられている。

#### E 農業上の留意事項

心土破碎、明渠、暗渠排水、酸性矯正。

#### F 分布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 分	簡 略 分 級 式
美 加 登	ⅢtwfiⅡnse

② 土壤区別説明

美 加 登 - 美 加 登

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	表 土 の 磔 含 量	耕 耘 の 難 易	(表 土 の 粘 着 性)	(表 土 の 乾 硬 さ)	(土 地 の 水 潤 度)	(保 湿 性)	(自 然 潤 度)	(固 肥 力)	(土 層 定 塩 基 状 態)	(置 換 性 石 灰 含 量)	(有 効 加 里 多)	(微 燐 要 素 度)	(酸 燐 害 無 性)	(障 害 物 質 の 有 無 性)	(災 害 的 障 害 の 危 険 度)	(地 冠 す べ り の 危 険 度)	(傾 斜 方 向 斜 度)	(傾 斜 方 向 斜 度)	(人 為 傾 斜 方 向 斜 度)	(侵 蝕 性)	(耐 蝕 性)
ⅢⅢⅠⅠⅠⅡⅡⅠ	t d g p			w		f			n					i	a	s				e		
ⅢⅢⅠⅠⅠⅡⅡⅠ				Ⅲ 3 2 3	Ⅲ 1 2 2	Ⅱ 1 1 1 1 2 2	Ⅲ 1 3	Ⅰ 1 1	Ⅱ 2 --	Ⅱ 2 2 1												
簡略分級式	ⅢtwfiⅡnse																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は美加登統に属する。表土の厚さは14cm内外で浅い有効土層は100cm以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土多、加里多、有効態燐酸多である。特殊な障害性なし。

B 植生及び利用状況

主として、てん菜、馬鈴薯、牧草が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

心土が盤層を呈するため、明渠、暗渠に心土破碎を併用する必要がある。

D 分 布

北海道中川郡池田町

記 載 責 任 者 横 井 義 雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和47年3月31日

# 高 島 統

## (1) 土壌統の概説

### A 土壌統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ24cm内外で、土性はLである。腐植含量2.24%、色は10YRで彩度3、明度5である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.2で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.3、下層との境界判然である。

第2層は厚さ26cm内外で、土性はLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度3、明度5である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.6、下層との境界漸変である。

第3層は50cm以下で、土性はSiCLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度4、明度5である。礫なく発達中度の粒状、弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.5である。

#### 代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑No. 39

第1層	0~24cm	腐植を含む、黄褐(10YR5/3)のL、礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.2で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.3、層界判然。
第2層	24~50cm	腐植を欠き、黄褐(10YR5/4)のL、礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.6、層界漸変。
第3層	50cm~	腐植を欠き、黄褐(10YR6/4)のSiCL、礫なく発達中度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.5。

#### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~24	2.2		1.0	47.4	36.6	15.0	L			1.30	0.16	8	2.24
2	24~50	2.3		0.3	60.8	28.1	10.7	L			—	—	—	—
3	50~	2.5		0.7	33.9	48.1	17.4	SiCL			—	—	—	—



層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.3	4.4	0.88	22.3	16.5	3.5	1.6	74.0	930	40.6
2	5.6	4.6	0.50	20.2	16.7	3.3	0.4	82.7	755	19.8
3	5.5	4.4	0.75	23.3	18.9	4.8	0.3	81.1	1340	15.4

#### A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、大森統、川合統、利別統があるが、大森統とは水分環境、腐植層序が、川合統とは水分環境が、利別統とは土性が異なるので本統と区別される。

#### A-3 母材

非固結水成岩／非固結水成岩

#### A-4 堆積様式

水積／水積

#### B 地形

平坦

#### C 気候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 817mm

#### D 植生及び利用状況

主として、菜豆、小豆、てん菜、牧草が作付けられている。

#### E 農業上の留意事項

有機物の投入、漸次深耕。

#### F 分布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日



# 千 代 田 統

## (1) 土壤統の概説

### A 土壤統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ27cm内外で、土性はSLである。腐植含量4.48%、色は10YRで彩度1、明度2である。未風化細小円礫に富む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH (H<sub>2</sub>O) 5.4、下層との境界判然である。

第2層は厚さ39cm内外で、土性はLSである。腐植を欠き、色は10YRで彩度4、明度5である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH (H<sub>2</sub>O) 5.2である。

第3層は66cm以下砂礫層である。

### 代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑No.99

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %	土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
第1層	0~27cm			粗砂 3.41 細砂 4.76 シルト 13.9 粘土 4.4	SL			2.60	0.23	11	4.48
第2層	27~66cm			粗砂 3.16 細砂 5.83 シルト 5.8 粘土 4.4	LS			—	—	—	—
第3層	66cm~			砂礫層							

### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~27	2.5		3.41	4.76	13.9	4.4	SL			2.60	0.23	11	4.48
2	27~66	1.9		3.16	5.83	5.8	4.4	LS			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.4	4.3	0.00	14.8	5.8	0.8	0.5	39.2	97.0	20.6
2	5.2	4.1	4.38	8.3	4.4	0.6	0.3	53.0	66.0	4.0

A-2 他の土壌との関係

本統に隣接する統としては青山統があるが、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材

非固結水成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式

崩積／崩積

B 地形

傾斜

C 気候

年平均気温 5.7℃      年降水量 817mm

D 植生及び利用状況

主として、牧草、麦類が作付けられている。

E 農業上の留意事項

除礫、明渠、暗渠排水。

F 分布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 分	簡 略 分 級 式
千 代 田	Ⅲ g f n s e Ⅱ d p w a

② 土壤区説明

千 代 田 - 千 代 田

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 厚 さ	有 効 土 層 深 さ	表 土 土 質	耕 起 土 質	(表 土) 粘 土 含 量	(表 土) 乾 燥 性	(土 地) 乾 燥 性	(透 水 性)	(保 湿 性)	(自 然 沃 土)	(保 固 力)	(土 層 定 力)	(養 分 状 態)	(置 換 性)	(有 効 量)	(微 量 元 素)	(酸 度)	(障 害 性)	(有 害 質 無 性)	(災 害 危 險 性)	(増 冠 水 害 危 險 性)	(地 盤 傾 斜 危 險 性)	(自 然 傾 斜 危 險 性)	(人 為 傾 斜 危 險 性)	(侵 蝕 度 性)	(耐 風 蝕 性)	(耐 水 蝕 性)	
Ⅲ	I	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	I	I	I	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
簡略分級式	Ⅲ g f n s e Ⅱ d p w a																											

A 土壤区の特徴

この土壤区は千代田統に属する。表土の厚さは27cm内外で深い。有効土層は66cm内外でやや深い。表土の土性は壤質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土多、加里多、有効態磷酸多である。特殊な障害性なし。

B 植生及び利用状況

主として、牧草、麦類が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

傾斜を呈しているため緑地帯の設置など保全耕作を行う。明渠、暗渠により排水を行い、伏流水を防ぐ必要がある。

D 分 布

北海道中川郡池田町

記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和47年3月31日

# 大 森 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外で、土性はSiCLである。腐植含量3.97%、色は10YRで彩度4、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.0で頗る疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.3、下層との境界判然である。

第2層は厚さ10cm内外で、土性はCLである。腐植含量4.05%、色は10YRで彩度2、明度4である。礫なく発達弱度の塊状、粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.4、下層との境界判然である。

第3層は厚さ5cm内外で、土性はSiCLである。腐植含量3.28%、色は10YRで採度1、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、斑鉄あり、細孔あり、ち密度1.9で中、pH(H<sub>2</sub>O) 5.4、下層との境界判然である。

第4層は40cm以下で、土性はSiCLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度2、明度6である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、斑鉄あり、細孔あり、ち密度1.9で中、pH(H<sub>2</sub>O) 5.6である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑No.28

第1層	0～25cm	腐植を含む、黄褐(10YR3/4)のSiCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.0で頗る疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.3、層界判然。
第2層	25～35cm	腐植を含む、黄褐(10YR4/2)のCL、礫なく発達弱度の塊状、粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.4、層界判然。
第3層	35～40cm	腐植を含む、黒色(10YR3/1)のSiCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、斑鉄あり、細孔あり、ち密度1.9で中、pH(H <sub>2</sub> O) 5.4、層界判然。
第4層	40cm～	腐植を欠き、灰褐(10YR6/2)のSiCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、斑鉄あり、細孔あり、ち密度1.9で中、pH(H <sub>2</sub> O) 5.6。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	2.2		2.7	21.5	53.1	2.28	SiCL			2.30	0.24	1.0	3.97
2	25~35	2.1		2.5	32.7	44.8	20.0	CL			2.35	0.24	1.0	4.05
3	35~40	2.8		2.9	23.1	50.0	23.9	SiCL			1.90	0.18	1.1	3.28
4	40~	2.4		0.8	31.9	46.7	20.6	SiCL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.3	4.4	0.75	2.78	1.88	4.5	0.5	67.6	1.170	13.6
2	5.4	4.5	1.00	2.72	1.95	4.3	0.5	71.7	1.348	21.8
3	5.4	4.4	1.00	3.31	2.13	6.4	0.5	64.4	1.130	11.0
4	5.6	4.4	0.88	2.74	1.72	5.8	0.5	62.8	1.170	9.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては高島統があるが、水分環境、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材

非固結水成岩 / 非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積 / 水積

B 地形

緩傾斜

C 気候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 817mm

D 植生及び利用状況

主として、てん菜、馬鈴薯、豆類、牧草を作付けている。

E 農業上の留意事項

遮断明渠、暗渠排水、漸次深耕。

F 分布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土 壤 区 分	簡 略 分 級 式
大 森	Ⅲwn Ⅱfs

② 土壤区別説明

大 森 — 大 森
-----------

示 性 分 級 式 ( 畑 )

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 厚 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	表 土 転 換 の 容 易 性	耕 土 の 粘 着 性	( 表 土 の 乾 硬 さ )	( 表 土 の 乾 湿 性 )	土 透 透 性	( 保 湿 性 )	自 然 沃 度	( 保 肥 力 )	( 固 定 力 )	( 土 層 の 塩 基 状 態 )	養 分 換 換 性	( 置 換 性 )	( 苦 土 多 )	( 加 里 多 )	( 有 効 態 磷 酸 多 )	( 微 酸 性 )	障 害 物 質 の 有 無	( 有 害 物 質 の 害 害 性 )	災 害 冠 水 の 危 險 度	( 地 冠 水 の 危 險 度 )	傾 斜 然 傾 斜 方 向	( 傾 斜 方 向 )	傾 斜 然 傾 斜 方 向	( 傾 斜 方 向 )	侵 入 為 害 傾 斜 方 向	( 侵 入 為 害 傾 斜 方 向 )	( 耐 水 蝕 蝕 性 )	( 耐 風 蝕 蝕 性 )					
Ⅲ	I	I	I	2	2	1	Ⅲ	2	2	3	Ⅱ	1	2	2	Ⅲ	1	1	1	2	2	I	1	1	I	1	1	Ⅱ	2	—	—	I	2	1	1
簡略分級式	Ⅲwn Ⅱfs																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は大森統に属する。表土の厚さは25cm内外で深い。有効土層は100cm以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土多、加里多、有効態磷酸多である。特殊な障害性なし。

B 植生及び利用状況

主として、てん菜、馬鈴薯、豆類、牧草を作付けている。

C 地力保全上の問題点

緩傾斜を呈している大きな扇状地形のため遮断明渠、暗渠排水が必要である。また、塩基、磷酸の補給も忘れてはならない。

D 分 布 北海道中川郡池田町

記 載 責 任 者	横 井 義 雄 (北海道立十勝農業試験場)
日 付	昭 和 4 7 年 3 月 3 1 日



## 川 合 統

### (1) 土壤統の概説

#### A 土壤統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ26cm内外で、土性はSiCLである。腐植含量5.60%、色は2.5Yで彩度2、明度3である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度20で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.8、下層との境界判然である。

第2層は厚さ9cm内外で、土性はSiCLである。腐植を欠き、色は5Yで彩度2、明度4である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、斑鉄あり細孔あり、ち密度18で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5、下層との境界判然である。

第3層は厚さ55cm内外で、土性はSiCである。腐植含量9.14%、色は7.5Yで彩度2、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、斑鉄あり細小孔あり、ち密度18で疎、pH(H<sub>2</sub>O)4.8、下層との境界判然である。

第4層は90cm以下でヨシを主体とする低位泥炭である。

#### 代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑No.79

第1層	0~26cm	腐植に富む、灰色(2.5Y3/2)のSiCL、礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度20で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.8、層界判然。
第2層	26~35cm	腐植を欠き、灰色(5Y4/2)のSiCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、斑鉄あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、層界判然。
第3層	35~90cm	腐植に富む、灰色(7.5Y3/2)のSiC、礫なく発達弱度の塊状構造あり、斑鉄あり、細小孔あり、ち密度18で疎、pH(H <sub>2</sub> O)層界判然。
第4層	90cm~	ヨシを主体とする低位泥炭土

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~26	3.6		3.2	24.9	51.4	20.7	SiCL			3.25	0.31	10	5.60
2	26~35	3.4		1.9	31.2	48.4	18.4	SiCL			—	—	—	—
3	35~90	4.3		3.3	15.3	50.6	30.8	SiC			5.30	0.40	13	9.14

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.8	4.8	0.50	23.0	14.5	2.1	1.0	63.0	860	48.5
2	5.5	4.4	1.00	18.6	9.4	2.1	0.8	50.5	1,020	24.8
3	4.8	3.8	9.75	24.8	7.1	1.4	0.6	28.6	1,230	6.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、高島統、利別統があるが、高島統とは水分環境が、利別統とは土性、水分環境が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材

非固結水成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式

水 積/水 積

B 地 形

平 坦

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 817mm

D 植生及び利用状況

主として、てん菜、馬鈴薯、豆類、一部水稲も作付けている。

E 農業上の留意事項

明渠、暗渠排水、漸次深耕。

F 分 布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土 壤 区 分	簡 略 分 級 式
川 合	Ⅲ w Ⅱ p f a

② 土壤区分説明

川 合 - 川 合
-----------

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 厚 深 さ	表 土 層 容 易 量	耕 起 難 易	(表 土 粘 着 性)	(表 土 乾 硬 性)	(土 地 乾 湿 性)	(透 水 性)	(保 湿 度)	自 然 沃 沃 度	(保 固 力)	(土 層 固 定 力)	養 分 塩 基 状 態	(置 換 性)	(石 灰 含 量)	(苦 土 多 少)	(加 里 多 少)	(有 効 燐 酸 多 少)	(微 酸 性)	(障 害 物 質 有 無)	(物 理 的 障 害 性)	(災 害 危 險 度)	(地 冠 水 危 險 度)	(傾 斜 危 險 度)	(自 然 傾 斜 方 向)	(人 為 傾 斜 方 向)	(侵 蝕 度)	(耐 風 蝕 性)	(耐 水 蝕 性)		
Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
簡略分級式	Ⅲ w Ⅱ p f a																													

A 土壤区の特徴

この土壤区は川合統に属する。表土の厚さは26cm内外で深い。有効土層は100cm以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態良である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土多、加里多、有効態燐酸多である。特殊な障害性なし。

B 植生及び利用状況

主として、てん菜、馬鈴薯、豆類、一部水稲も作付けている。

C 地力保全上の問題点

排水不良地であるので、明渠、暗渠排水を行い、適量の改良材料を投入して漸次深耕する。

D 分 布

北海道中川郡池田町

記載責任者 横井 義 雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和37年3月31日

## コ タ ノ ロ 統

### (1) 土壤統の概説

#### A 土壤統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ30cm内外、土性はSLである。腐植含量2.93%、色は10YRで彩度2、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H<sub>2</sub>O)7.3、下層との境界判然である。

第2層は30cm以下で、土性はSiCLである。腐植を欠き、色は7.5YRで彩度1、明度5である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙を欠き、斑鉄あり、ち密度2.0で中、pH(H<sub>2</sub>O)6.0である。

#### 代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑1686

第1層	0~30cm	腐植を含む、灰褐(10YR3/2)のSL、発達弱度の塊状構造、細孔あり、礫なし、ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O)7.3、調査時の湿り湿、層界判然。
第2層	30cm~	腐植欠く、灰褐(7.5YR5/1)のSiCL、発達弱度の塊状構造、礫なし、斑鉄あり、ち密度2.0で中、pH(H <sub>2</sub> O)6.0、調査時の湿り湿。

#### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~30	2.7	0	3.4	74.7	14.4	7.5	SL			1.70	0.19	9	2.93
2	30~	5.1	0	2.2	25.6	48.6	23.6	SiCL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	7.3	6.7	0.38	18.6	25.4	2.4	2.3	136.6	860	56.4
2	6.0	5.2	0.38	29.2	18.7	3.9	1.4	64.0	1,330	1.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似せる統は高島北統があるが、下層の土性、色層序、水分環境が異なるため区別した。

A-3 母材

非固結水成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積／水積

B 地形

平坦

C 気温

年平均気温 5.7℃ 年降水量 817mm

D 植生及び利用状況

耕地として利用され、主に馬鈴薯、ビート、小豆、菜豆、牧草などが栽培されている。

E 農業上の留意事項

生産力の高い土壌であるが、一層高めるために排水を良好にし、有機物を補給し、適度な塩基の補給が必要である。多雨時、増冠水のおそれがあるので、その対策及び停滞水の排除に備える必要がある。

F 分布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
コ タ ノ ロ	III w II f a e

② 土壌区説明

コ タ ノ ロ - コ タ ノ ロ

示性分級式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表)	(表)	(土)	(透)	(保)	(湿)	自	(保)	(固)	(土)	養	(置)	(有)	(微)	(酸)	障	(有)	(物)	災	(増)	(地)	傾	(自)	(傾)	(人)	侵	(耐)	(耐)
壤	生	効	土	土	土	土	地				然		層	の	分	換	"	"	効		害	物	害	冠	す	然	斜	為		水	風	
産	力	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	要	害	質	障	害	の	の	傾	傾	傾	蝕	蝕		
可	能	の	の	の	の	の	乾				沃		基	状	豊	含	"	"	"	素	度	性	無	性	危	危	斜	斜	蝕	蝕		
性	厚	深	含	難	土	着	性	性	性	度	度	力	力	態	否									斜	斜	向	斜	度	性	性		
等	級	さ	さ	量	易		湿	性	性	度	度	力	力	態	否									斜	斜	向	斜	度	性	性		
		t	d	g	p		w			f				n						i		a		s			e					
Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	
簡略分級式							Ⅲ w			Ⅱ f a e																						

A 土壤区の特徴

この土壤区はコタノロ統に属する。表土の厚さは30cm内外で深く、有効土層も1m以上で深い。表土は礫を含まず、土性は中粒質で農具は使いやすい。保水性は中庸だが、下層土の透水性悪く、土壤は過湿のおそれが大きい。保肥力中、固定力中、上層の塩基状態良で自然肥沃度は中庸である。

作土は有効態養分に富み、酸度も適当である。特殊な障害性はない。

地形は平坦、侵蝕は河川流域の護岸工事のない局所で、部分的にみられる。

B 植生及び利用状況

草地、耕地として利用され、ビート、馬鈴薯、小豆、菜豆などが作付けされている。

C 地力保全上の問題点

地力は高いが、水分環境の改善が問題となるほか、有機物、塩基の補給が地力の維持増進のためには必要となってくる。

D 分布

北海道中川郡池田町

記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和47年3月31日

利 別 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12cm内外、土性はSCLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度2、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.4である。

第2層は12cm以下円礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑16.7

第1層	0~12cm	腐植欠く、灰褐(10YR3/2)のSCL、発達弱度の塊状構造、礫なし、ち密度1.8で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り半乾、層界不規則半然。
第2層	12cm~	円礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	1~12	2.6	0	27.2	44.6	17.4	10.8	SL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.4	4.5	0.75	15.7	9.9	2.6	0.8	63.1	600	20.4

A-2 他の土壤統との関係

堆積様式が同一であるもので、腐植、層、礫層の出現位置、表土の土性、いずれの点からみても本統に類似せる統はないので区別した。

A-3 母 材

非固結水成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式

水 積／水 積

B 地 形

平 坦

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 817mm

D 植生及び利用状況

主として畑として利用され、ビート、馬鈴薯、小豆、菜豆などが作付されている。

E 農業上の留意事項

土壌の性質は良いが、作土層浅く、河川流域にあるので、増冠水による作土の流れには充分留意しなければならない。作土の深化はその次に来る問題となる。生産力はあるが、更に増進するため、有機物の施用を怠たつてはならない。

F 分 布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横 井 義 雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
利 別	IVtd III i II fa e

② 土壌区別説明

利 別 一 利 別
-----------



示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表効土の厚さ	有土の層の深さ	表土の難易	耕土の粘着性	(表土)の乾硬さ	(表土)の水分	(透保)の潤度	(自保)の肥沃度	(固保)の肥力	(土質)の塩基状態	養分換性の豊富	(置換)の苦灰	(有微)の加土	(酸)の燐素	障害物質の有無	(物理)的障害	災(増冠すべりの危険)	(地すべりの危険)	(傾斜)の傾方	(自傾)然の傾方	(人)為の傾斜	(侵)蝕	(耐)風水蝕			
	t	d	g	p		w		f		n				i	a	s					e					
Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ
簡略分級式		Ⅳtd Ⅲi Ⅱfae																								

A 土壤区の特徴

この土壤区は利別統に属する。表土の厚さは12cm内外で薄く、この直下に礫層を有する。表土は礫を含まず、中粒質で、粘着性弱いため農具は扱いやすい。保水性は中庸であるが、下層土に透水良好な層があるため、降雨少ない季には過干のおそれがある。保肥力中、固定力弱、土層の塩基状態良好で、自然肥沃度は中庸である。有効態養分にとみ、酸度も適当である。特殊な障害性としては、作土直下の礫層かつ物理的な障害となる。地形は平坦、侵蝕は河川流域であるため、増水の場合に流失するものが局所にみとめられる。

B 植生及び利用状況

主として畑地として利用され、ビート、馬鈴薯、小豆、菜豆などが作付けされている。

C 地力保全上の問題点

土壤の性質は良好であるが、有機物を補給することと、塩基の適度な補給が必要である。耕地の流失については、最近、護岸工事が進んでいるので、効果をあげている。

D 分布

北海道中川郡池田町

記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和47年3月31日

# 高 島 北 統

## (1) 土壌統の概説

### A 土壌統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、土性はCLである。腐植含量4.65%、色は10YRで彩度2、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.1、下層との境界判然である。

第2層は厚さ23cm内外、土性はLiCである。腐植含量6.90%、色は7.5YRで彩度2、明度4である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H<sub>2</sub>O)4.8、下層との境界判然である。

第3層は厚さ42cm内外、土性はSである。腐植を欠き、色は2.5Yで彩度2、明度5である。礫なく単粒状構造、孔隙なし、ち密度1.3で疎、下層との境界漸変である。

第4層は83cm以下、土性はCLである。腐植を欠き、色は2.5Yで彩度2、明度6である。

### 代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑No.83

第1層	0~18cm	腐植を含む、灰褐(10YR3/2)のCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.1、層界判然
第2層	18~41cm	腐植に富む、灰褐(7.5YR4/2)のLiC、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H <sub>2</sub> O)4.8、層界判然。
第3層	41~83cm	腐植を欠き、灰色(2.5Y5/2)のS、礫なく単粒状構造あり、ち密度1.3で疎、層界漸変。
第4層	83cm~	腐植を欠き、灰色(2.5Y6/2)のCL。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	3.5		4.6	35.4	43.0	16.9	CL			2.70	0.29	9	4.65
2	18~41	6.5		7.7	15.1	42.9	34.4	LiC			4.00	0.37	11	6.90

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.1	4.1	2.63	20.2	11.5	1.8	0.2	56.9	970	6.2
2	4.8	4.0	2.63	35.7	17.9	4.0	0.2	50.1	1,600	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては、川合統があるがグライ化の程度が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材

非固結水成岩 / 非固結水成岩

A-4 堆積様式

水 積 / 水 積

B 地 形

平 坦

C 気 候

年平均気温 5.7 °C      年降水量 817 mm

D 植生及び利用状況

主として、牧草、てん菜、一部水稲を作付けている。

E 農業上の留意事項

河川改修、明渠、暗渠排水、酸性矯正

F 分 布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土 壤 区 分	簡 略 分 級 式
高 島 北	Ⅲ w f n a Ⅱ t e

② 土壤区別説明

高 島 北 — 高 島 北

示 性 分 級 式 ( 畑 )

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 厚 深 さ	表 土 的 磔 含 量	耕 耘 的 難 易 性	( 表 土 ) 粘 土 着 性	( 表 土 ) 乾 硬 性	( 土 地 ) 乾 湿 性	( 透 水 ) 性	( 保 水 ) 度	自 然 沃 潤 度	( 保 肥 ) 力	( 固 定 ) 力	( 土 層 ) 塩 基 状 態	養 分 含 量	( 置 換 ) 性	( 〃 ) 〃	( 〃 ) 〃	( 有 効 ) 量	( 微 酸 ) 性	( 酸 度 )	障 害 質 的 有 害 性	( 有 害 ) 性	( 物 理 的 障 害 ) 性	災 害 危 險 度	( 地 冠 水 ) 危 險 度	( 傾 斜 ) 度	( 自 然 傾 斜 ) 度	( 傾 斜 ) 度	( 侵 蝕 ) 度	( 耐 風 蝕 ) 性		
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ
簡略分級式	Ⅲ w f n a Ⅱ t e																														

A 土壤区の特徴

この土壤区は高島北統に属する。表土の厚さは18cm内外でやや深い。右効土層は100cm以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、砕土は容易である。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態中である。作土の酸度強、置換性石灰多、苦土多、加里中、磷酸中である。特殊な障害性なし。

B 植生及び利用状況

主として、牧草、てん菜、一部水稲を作付けている。

C 地力保全上の問題点

排水不良地であるから排水が先決である。明渠、暗渠だけでは効果が少ないので河川改修が第一に必要である。また酸性を呈するので石灰の施用も忘れてはならない。

D 分 布

北海道中川郡也田町

記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和47年3月31日

# 東 台 統

## (1) 土壤統の概説

### A 土壤統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はLiCである。腐植含量5.34%、色は10YRで彩度2、明度4である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.0で頗る疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.2、下層との境界判然である。

第2層は厚さ20cm内外、土性はHCである。腐植含量8.62%、色は10YRで彩度1、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 4.6、下層との境界判然である。

第3層は40cm以下で、ヨシを主体とする低位泥炭土である。色は10YRで彩度2、明度2である。

#### 代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑No.126

層位	採取部 位 cm	特徴
第1層	0~20cm	腐植に富む、灰褐色(10YR 4/2)のLiC、礫なく発達弱度の塊状構造、細孔あり、ち密度1.0で頗る疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.2、調査時の湿り半乾、層界判然。
第2層	20~40cm	腐植に富む、黒色(10YR 3/1)のHC、礫なく発達弱度の塊状構造、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 4.6、調査時の湿り湿、層界判然。
第3層	40cm~	ヨシを主体とする低位泥炭層。

#### 代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	4.2	0	1.8	28.4	36.2	33.6	LiC			3.10	0.30	1.0	5.34
2	20~40	6.9	0	0.1	13.5	26.7	59.7	HC			5.00	0.49	1.0	8.62
3	40~	7.6	0	—	—	—	—	—			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.2	3.9	17.13	22.4	10.8	1.9	0.5	48.2	1.230	6.0
2	4.6	3.3	56.50	40.5	11.3	3.7	0.3	27.9	1.590	2.4
3	4.4	3.5	21.63	49.3	12.1	6.7	0.2	24.5	—	1.6

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似せるものは、青山統があれど、腐植層序、土性、表土並びに次層の層厚、および水分環境が異なるによつて区別せられたるものなり。

A-3 母材

非固結水成岩 / ヨシ

A-4 堆積様式

水積 / 集積

B 地形

平坦

C 気候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 817mm

D 植生及び利用状況

主として、牧草、てん菜などが作付されている。

E 農業上の留意事項

明渠、暗渠排水、酸性矯正。

F 分布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
東 台	pwn    tfa

② 土壤区別説明

東 台 - 東 台

示性分級式 (畑)

土壌	表土	有効土	表土	耕土	(表土)	(表土)	(土)	(透)	(保)	(湿)	自然	(保)	(固)	(土)	養分	(置)	(有)	(微)	(酸)	障	(有)	(物)	災	(増)	(地)	傾	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)	(耐)		
生産力	土層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可能	厚	深	含	難	粘	乾	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃
性	等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
t	d	g	p				w				f				n						i			a			s						e	
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	3	2	Ⅲ	3	2	3	Ⅱ	1	2	2	Ⅲ	1	1	1	2	1	3	Ⅰ	1	1	Ⅱ	2	1	Ⅰ	1	1	1	Ⅰ	1	1
簡略分級式					Ⅲpwn Ⅱtfa																													

A 土壤区の特徴

本土壌区は東台統に属する。表土の厚さは20cm内外でやや深く、有効土層は1m以上で深い。表土は礫を含まないが、微粒質で粘着性強く、農具が使いにくい。保水性は中庸だが、下層土の透水性が小さく、土壤は過湿のおそれが大きい。

保肥力は大きい、固定力、土層の塩基状態やや不良で、自然肥沃度は中庸である。

作土は石灰、苦土、加里及び磷酸などの有効態養分に富んでいるが、酸性が非常に強い。特殊な障害性は存在しない。地形は平坦で侵蝕は認められない。

B 植生及び利用状況

主として、水田として利用されている。

C 地力保全上の問題点

排水不良地であるため、水田として利用する場合には問題とならないが、畑作に転向する場合には組織的な排水が必要であり、これに続いて酸性矯正が第一の問題となる。それ以降、土壤自体の性質は悪くないので、地力を維持するよう努めればよい。

D 分布

北海道中川郡池田町

記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和47年3月31日

青 山 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12cm内外、土性はCLである。腐植含量12.0%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度22で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.8、下層との境界判然である。

第2層は12cm以下で、ヨシを主体とした低位泥炭土である。色は10YRで彩度3、明度3である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道中川郡池田町 試坑6151

第1層	0~12cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のCL、発達弱度の塊状構造、細孔あり、礫なし、ち密度22で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.8、調査時の湿り湿、層界判然。
第2層	12cm~	ヨシ主体の低位泥炭層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~12	4.4	0	7.7	27.0	43.0	22.3	CL			7.00	0.55	13	12.07
2	12~	8.2	0	—	—	—	—	—			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.8	4.8	0.75	24.2	17.7	1.5	0.4	73.1	1,140	28.0
2	4.7	3.7	15.13	47.3	10.5	1.5	0.4	22.2	1,920	1.6



A-2 他の土壌統の関係

本統に類似せる統としては、東台統があるが、本当は表土浅く、腐植層序異なり、土性、及び乾湿の程度が異なりたるにより区分せり。

A-3 母材

非固結水成岩 / ヨシ

A-4 堆積様式

水積 / 集積

B 地形

平坦

C 気候

年平均気温 5.7 °C      年降水量 817 mm

D 植生及び利用状況

主として水田として利用されている。

E 農業上の留意事項

水田として利用する場合には問題がないが、畑作に転作する場合には排水を組織的に行ない、続いて酸性を矯正することが必要である。

F 分布

北海道中川郡池田町

調査及び記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和47年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
青 山	Uw III tfa II pne

② 土壌区別説明

青 山 - 青 山

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	表土の量	耕耘の易	(表土の粘着性)	(表土の乾しさ)	(透水性)	(保水性)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土質)	養分塩基状態	(置換性)	(苦土量)	(加里酸)	(微酸量)	(有害物質の有害性)	(物理的障害の無性)	災害増冠水の危険度	(地すべりの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(人為傾斜)	(侵蝕度)	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)										
IV	II	I	I	II	2	2	2	IV	3	2	3	III	1	2	1	II	1	1	1	1	2	1	I	1	1	III	3	1	I	1	—	—	II	2	1	1
簡略分級式	IVw III tfa II pne																																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は青山統に属する。表土の厚さは1.2cm内外で中庸であるが、有効土層は1m以上で深い。表土は礫を含まないが、細粒質で粘着性あり、農具がやや使いにくい。保水性は中庸であるが、透水性悪く湿潤度が大きい。保肥力、土層の塩基状態は良好であるが、固定力がやや大きいので自然肥沃度は中庸である。有効態の養分多く酸度も適当である。特殊な障害害性はないが、多雨、融雪時には冠水のおそれ大きい。地形は平坦で、増水時には水蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

主として水田として利用されている。

C 地力保全上の問題点

この土壤区では表土が薄く、かつ土性が細かいので農具が扱いにくい。また、表土直下から泥炭層であるため、作土の深化がむづかしい。水田としては問題が少なくとも畑作に転向する場合には、排水を組織的に行ない、酸性を矯正する必要がある。これにともなつて塩基の補給。

D 分布

北海道中川郡池田町

記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和47年3月31日

## 2 保全対策地区分および説明

### 1) 保全対策地区の説明

土壌の性状および主要な保全対策を検討の上、次の7保全対策地区を設定した。

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
昭 栄	昭 栄	740	①乾燥地 ②作土は新期火山灰 心土中期アロフエン質火山灰 ③腐植含量少ない ④波状地形	1.防風林の完備 2.塩基、磷酸の補給 3.心土に適量の改良資を施用して漸次深耕 4.有機物の施用 5.保全耕作
常 盤	常 盤 舞 見 清 池 田	1,194	①適潤地 ②作土新期火山灰、 心土中期アロフエン質火山灰 ③腐植含量多い ④酸性を呈する。	1.明渠、暗渠排水 2.酸性矯正 3.塩基、磷酸の補給
近 牛	近 牛	661	①適潤地 ②作土新期火山灰、 心土洪積土 ③傾斜地	1.緑作帯の設置、保全耕作 2.塩基、磷酸、有機物の補給
美 加 登	美 加 登	669	①湿地 ②作土は火山、心土は盛層を呈する。 ③酸性を呈する。	1.心土破碎および暗渠、明渠排水 2.保全耕作 3.酸性矯正 4.塩基、磷酸の補給
高 島	高 島	979	①乾燥地 ②作土、心土とも沖積土	1.深耕 2.有機物、塩基の補給

保全対策地区名	該当面積	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
川合	千代田 大森 川合 コタノロ 利別 東台	3,073	①作土沖積土、心土沖積土あるいは泥炭土。ところにより礫に近い。 ②酸性を呈する。 ③平坦地および沢。	1.暗渠および幹線明渠 2.酸性矯正 3.塩基、磷酸の補給
青山	青山	525	①作土沖積土（火山灰を混入） 心土泥炭土 ②酸性を呈する。 ③平坦地	1.暗渠および幹線明渠、捕水渠 2.酸性矯正

## 2) 保全対策区別説明

### <昭栄保全対策地区>

#### (1) 分布状況

町村名	面積 (ha)	該当土壌区
池田町	740	昭栄 - 昭栄

#### (2) 保全対策地区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土は新期の火山灰であるが、心土は不良なアロフエン質火山灰からなる土壌である。乾燥地で地形は、波状地形～緩傾斜を呈している。腐植含量少なく、かつ腐植層のうすい土壌である。

春季に風蝕を受けやすいため防風林の完備が必要である。心土が不良なアロフエン質火山灰よりなるため、心土に適量の有機物および改良資材を施用して漸次深耕する。

地力を維持増進させるため、塩基、磷酸の補給、有機物の施用が必要である。波状地形を呈しているため、保全耕作、緑作帯の設置も必要である。

対策の種類	面積 (ha)	実施方法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
心土の改良 塩基、磷酸、有機物の補給 保全耕作	740	堆肥の施用 緑作帯	石灰、熔

<常盤保全対策地区>

(1) 分布状況

町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
池 田 町	1, 1 9 4	常盤一常盛、様舞一様舞 清見一清見、池田一池田

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土は新期の火山灰であるが、心土は不良なアロフエン質火山灰からなる土壌である。適潤地～湿地で地形はほぼ平坦である。腐植含量多く、酸性を呈するため酸性矯正、明渠、暗渠排水が必要である。

不良な心土の改良のために、心土に対する資材の施用も考えられる。地力を維持増進させるため、塩基、リン酸の補給を忘れてはならない。

対 策 の 種 類	面 積 (ha)	実 施 方 法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
暗渠、明渠排水 心土の改良 酸性矯正 塩基、リン酸の補給	1, 1 9 4	石灰の施用 石灰、苦土の施用	炭カル、熔燐 石灰 炭カル、硫酸苦土

<近牛保全対策地区>

(1) 分布状況

町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
池 田 町	6 6 1	近 牛 - 近 牛

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土は新期の火山灰であるが、心土は非火山灰からなる。適潤地であり、一部礫の近いところもある。

傾斜を呈しているため緑地帯の設置等保全耕作が必要である。

地力を維持増進させるために、塩基、リン酸の補給を忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	面積 (ha)	実施方法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
塩基、磷酸、有機物の補給 保全耕作	661	堆肥の施用 緑作帯	石灰、硫酸苦土、熔燐

<美加登保全対策地区>

(1) 分布状況

町村名	面積 (ha)	該当土壌区
池田町	669	美加登 - 美加登

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土は新期火山灰であるが、心土は盤層（凝灰質堆積物）を呈するので、心土破砕および暗渠、明渠が必要である。

また、酸性を呈するので、その矯正が必要である。地力を維持増進させるために、塩基、磷酸の補給を忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	面積 (ha)	実施方法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
心土破砕、明渠、暗渠排水 酸性矯正 塩基、磷酸、有機物の補給	669	石灰の施用 石灰、苦土の施用	ブルドーザー 石灰 炭カル、硫酸苦土

<高島保全対策地区>

(1) 分布状況

町村名	面積 (ha)	該当土壌区
池田町	979	高島 - 高島

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土、心土とも沖積土よりなる土壌である。地力は高い方であるが、更に維持増進させるために、塩基、有機物を補給しつつ深耕を行う。

(3) 地力保全対策

対策の種類	面積 (ha)	実施方法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
深耕 有機物、塩基の補給	979	堆肥、石灰、苦土 の施用	炭カル、硫酸苦土

<川合保全対策地区>

(1) 分布状況

町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
池 田 町	3.192	千代田-千代田、大森-大森 川合-川合、コタノローコタノロ 利別-利別、東台-東台 北高島-北高島

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土、心土とも沖積土よりなる土壌である。一部心土が泥炭土である土壌もある。ところにより礫の近い土壌もある。湿地であり明渠、暗渠排水が必要である。一部河川改修の必要もある。

酸性を呈するため、その矯正が必要である。また、地力を維持増進させるために、塩基、燐酸の補給を忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対 策 の 種 類	面 積 (ha)	実 施 方 法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
暗渠、明渠排水 酸性矯正 塩基、燐酸、有機物の補給	3.073	石灰 石灰、苦土、堆肥の施用	炭カル、硫酸苦土

<青山保全対策地区>

(1) 分布状況

町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
池 田 町	525	青 山 - 青 山

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土は沖積土（火山灰を混入）、心土が泥炭土である。排水不良地であるため、明渠、暗渠排水など総合的な排水が必要である。

また、酸性が強いため、その矯正が必要である。地力を維持増進させるため塩基、燐酸の補給を忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	面積 (ha)	実施方法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
総合的な排水 酸性矯正 塩基、燐酸の補給	525	石灰の施用 石灰、苦土の施用	石灰 炭カル、硫酸苦土



2) 土壤分析成績 (その1)

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	礫 (風乾物中) %	理 学 性							現地における 100CC 容中			
						風乾細土中		細土無機物中					土性	容積重 $\rho$	固相容積 CC	水分容積 CC
						水分%	腐植%	粗砂%	細砂%	砂合計%	シルト%	粘土%				
昭栄	昭栄	60	1	0~20		5.5	8.7	13.3	37.5	50.8	3.5	1.3	L			
			2	20~37		10.3	—	32.9	50.4	33.3	1.0	5.6	SL			
			3	37~60		7.4	—	20.1	61.8	81.9	1.3	4.4	SL			
			4	60~		6.1	—	19.1	59.6	78.7	1.6	5.2	SL			
常盤	常盤	43	1	0~18		2.9	10.3	8.3	57.3	65.6	2.0	1.3	SL			
			2	18~26		3.2	—	6.2	54.6	60.8	2.7	1.2	L			
			3	26~50		7.6	30.3	8.1	46.7	54.8	2.5	1.9	CL			
			4	50~63		7.8	—	14.8	63.5	78.3	1.6	4.8	SL			
			5	63~		8.7	—									
様舞	様舞	63	1	0~19		7.0	10.6	8.9	29.3	38.2	2.5	3.5	LiC			
			2	19~24		7.1	9.6	7.2	38.6	45.8	2.6	2.7	LiC			
			3	24~35		6.7	6.9	11.2	28.5	39.7	2.4	3.5	LiC			
			4	35~68		3.6	—	12.9	39.2	52.2	2.9	1.8	CL			

理学性		化学性												
空气容积 CC	孔隙率 %	pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 置 換 容 量 mg/100g	置換性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
		5.7	4.9	0.75	5.10	0.41	12	24.9	385.6	25.6	28.4	55.4	1,600	4.7
		6.0	5.4	0.50	—	—		16.2	186.5	28.5	24.9	41.4	2,270	0.2
		5.8	5.3	0.25	—	—		11.6	113.1	29.1	39.6	34.5	1,830	tr
		6.2	5.2	0.25	—	—		8.7	69.7	10.8	31.1	27.6	1,700	tr
		5.9	5.0	0.50	60.0	0.45	13	28.9	640.9	19.3	3.9	79.9	1,570	168
		6.1	5.1	0.50	—	—		26.5	562.0	22.9	3.3	75.5	1,828	1.7
		5.5	4.6	1.00	17.60	0.87	20	74.0	1,104.4	76.4	3.8	53.2	2,430	2.0
		5.5	4.7	0.75	—	—		42.7	512.1	51.1	4.1	42.6	2,390	tr
		5.8	5.0	0.58	—	—		26.6	271.2	28.0	6.4	36.1	2,190	tr
		5.3	4.2	2.38	6.20	0.49	13	42.1	496.3	54.9	6.8	42.0	1,660	11.6
		5.3	4.2	2.88	5.60	0.46	12	38.6	410.3	47.1	5.6	37.8	1,910	3.0
		5.2	4.0	3.38	4.00	0.28	14	38.5	410.8	64.1	4.8	38.2	1,430	tr
		5.8	4.0	2.63	—	—		15.7	184.2	57.1	3.9	41.4	910	tr

2) 土壤分析成績 (その2)

保 全 対 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	礫 (風 乾 物 中) %	理 学 性											
						風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現 地 に お け 1 0 0 C C 容			
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 %	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC	
常 盤	清 見	54	1	0~19		6.7	15.5	2	10.7	43.0	53.7	32.7	13.6	L			
			2	19~27		8.2	19.6	5	3.7	38.5	42.2	41.9	15.9	L			
			3	27~76		11.7	25.1	7	0.3	18.9	19.2	41.2	39.6	LiC			
	池 田	80	1	0~24		4.7	9.6	5	11.1	45.6	56.7	30.3	13.0	L			
			2	24~32		8.3	8.4	5	11.1	62.8	73.9	18.9	7.2	SL			
			3	32~57		11.0	9.1	4	17.8	53.8	71.6	26.0	2.4	SL			
			4	57~		6.2	—										
	近 牛	近 牛	48	1	0~23		3.3	29.6	5	16.4	36.1	52.5	34.7	12.8	L		
2				23~29		4.3	9.3	1	22.0	30.1	52.1	34.6	13.3	L			
3				29~50		7.2	—		26.6	49.6	76.2	22.5	1.3	SL			
4				50~65		5.8	2.2	4	17.0	33.6	50.6	26.2	23.2	CL			
5				65~		5.2	—		20.0	29.1	49.1	17.0	33.9	LiC			
美 加 登	美 加 登	21	1	0~14		2.7	9.1	4	7.1	39.2	46.3	34.6	19.1	CL			
			2	14~20		2.9	—		7.1	38.4	45.5	26.2	28.3	LiC			
			3	20~		1.9	—		23.6	35.0	58.6	27.9	13.5	L			

物理性 中		化 学 性												
		pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			置 換 容 量 me/ 100g	置換性mg/100g 塩 基			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
		H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
空 氣 容 積 CC	孔 隙 率 %													
		5.3	4.2	5.00	9.00	0.66	14	22.7	380.8	28.8	21.2	5.68	1,580	25.2
		4.9	4.0	9.38	11.40	0.69	17	40.1	213.8	21.0	8.2	19.0	2,040	4.8
		4.7	3.8	5.38	14.60	0.72	20	82.8	1,011.3	105.0	29.7	43.5	1,789	0.8
		5.8	5.0	0.50	5.60	0.49	11	30.9	671.6	85.9	17.1	77.3	1,600	8.6
		6.3	5.4	0.25	4.90	0.39	13	28.8	809.6	52.1	5.5	100.3	2,190	0.8
		6.3	5.4	0.25	5.30	0.42	13	32.7	756.5	36.3	5.8	82.6	2,530	tr
		6.2	5.2	0.25	—	—		10.9	142.4	25.8	30.7	46.8	1,750	tr
		5.9	5.0	0.50	17.20	0.44	39	27.8	564.4	21.6	5.7	72.7	1,390	8.0
		6.2	5.1	0.63	5.40	0.40	14	30.4	627.1	37.2	5.0	73.7	1,770	1.8
		6.3	5.3	0.88	—	—		22.6	306.3	29.0	7.8	48.2	2,140	tr
		5.9	4.8	0.50	1.30	0.13	10	19.3	238.2	68.5	93.8	44.0	1,570	tr
		5.6	4.5	1.25	—	—		16.0	202.1	68.5	66.8	45.0	960	tr
		5.4	5.1	0.50	5.30	0.46	12	26.2	472.8	60.9	45.0	64.5	1,240	22.0
		4.8	4.1	3.50	—	—		23.3	329.3	35.3	7.4	50.2	1,250	5.8
		4.6	3.6	10.25	—	—		15.1	161.9	56.9	3.4	38.4	830	0.8

2) 土壤分析成績 (その3)

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性								現地における 100CC容中			
					礫 (風 乾物中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	容 積 重 %	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %				
高 島	高 島	39	1	0~24	2.2	2.24	1.0	47.4	48.4	36.6	15.0	L				
			2	24~50	2.3	—	0.3	60.9	61.2	28.1	10.7	L				
			3	50~	2.5	—	0.7	33.8	34.5	48.1	17.4	SiCL				
川	千 代 田	99	1	0~27	2.5	4.48	3.41	47.6	81.7	13.9	4.4	SL				
			2	27~66	1.9	—	3.15	58.3	89.8	5.8	4.4	LS				
合	大 森	28	1	0~25	2.2	3.97	2.6	21.5	24.1	53.1	22.8	SiCL				
			2	25~35	2.1	4.05	2.5	32.7	35.2	44.8	20.0	CL				
			3	35~40	2.8	3.28	2.9	23.2	26.1	50.0	23.9	SiCL				
			4	40~	2.4	—	0.8	31.9	32.7	46.7	20.6	SiCL				
川 合	79	1	0~26	3.6	5.60	3.0	24.9	27.9	51.4	20.7	SiCL					
		2	26~35	3.4	—	1.9	31.3	33.2	48.4	18.4	SiCL					
		3	35~90	4.3	2.14	3.3	15.3	18.6	50.6	30.8	SiC					
コ タ ノ ロ	86	1	0~30	2.7	2.93	3.4	74.7	78.1	14.4	7.5	SL					
		2	30~	5.1	—	2.2	25.6	27.8	48.6	23.6	SiCL					

理学性		化 学 性												
		p H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
空 孔 氣 隙 容 積 率 CC %	5.3	4.4	0.88	1.30	0.16	8	22.3	460.4	70.7	76.7	74.0	930	40.6	
	5.6	4.6	0.50	—	—		20.2	469.0	65.4	17.9	82.7	755	19.8	
	5.5	4.4	0.75	—	—		23.3	530.3	96.4	14.2	81.1	1340	15.4	
	5.4	4.3	0.00	2.60	0.23	11	14.8	163.0	15.7	24.6	39.2	970	20.6	
	5.2	4.1	4.38	—	—		8.3	121.9	11.6	12.9	53.0	660	4.0	
	5.3	4.4	0.75	2.30	0.24	10	27.8	526.3	91.3	23.0	67.6	1170	13.6	
	5.4	4.5	1.00	2.35	0.24	10	27.2	546.8	85.8	25.8	71.7	1348	21.8	
	5.4	4.4	1.00	1.90	0.18	11	33.1	596.3	129.2	17.5	64.4	1130	11.0	
	5.6	4.4	0.88	—	—		27.4	481.9	118.4	25.3	62.8	1170	9.6	
	5.8	4.8	0.50	3.25	0.31	10	23.0	407.1	41.9	59.3	63.0	860	48.5	
	5.5	4.4	1.00	—	—		18.6	264.1	41.0	38.8	50.5	1020	24.8	
	4.8	3.8	9.75	5.30	0.40	13	24.8	200.2	26.8	31.0	28.6	1230	6.4	
	7.3	6.7	0.38				18.6	711.1	47.1	108.1	136.6	860	56.4	
	6.0	5.2	0.38				29.2	522.2	77.9	63.8	64.0	1330	1.0	

2) 土壌分析成績 (その4)

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	礫 (風乾物中) %	理 学 性							現地における 100CC容中			
						風 乾 細土中		細 土 無 機 物 中					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %				
川 合	高 島 北	83	1	0~18		3.5	4.65	4.7	35.4	40.1	43.0	16.9	CL			
			2	18~41		6.5	6.90	7.6	15.1	22.7	42.9	34.4	LiC			
	利 別	7	1	41~83		2.6	—	27.2	44.6	71.8	17.4	10.8	SL			
	東 台	126	1	0~20		4.2	5.34	1.8	28.4	30.2	36.2	33.6	LiC			
			2	20~40		6.9	8.62	0.1	13.5	13.6	26.7	59.7	HC			
			3	40~		7.6	—									
青 山	青 山	151	1	0~12		4.4	12.07	7.7	27.0	34.7	43.0	22.3	CL			
			2	12~		8.2	—									

理学性		化 学 性												
		p H		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			置 換 容 量 me / 100g	置換性基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有 効 態 磷 酸 mg / 100g
		H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C / N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
空 氣 容 積 CC	孔 隙 率 %													
		5.1	4.1	2.63	2.70	0.29	9	20.2	323.4	36.2	10.9	56.9	970	6.2
		4.8	4.0	2.63	4.00	0.37	11	35.7	499.5	80.4	11.0	50.1	1,600	tr
		5.4	4.5	0.75				63.1	275.4	52.5	39.8	63.1	600	20.4
		5.15	3.85	17.13	3.10	0.30	10	22.4	301.9	39.7	22.1	48.2	1,230	6.0
		4.60	3.30	5.65	5.00	0.49	10	40.5	316.2	74.9	14.3	27.9	1,590	2.4
			3.45	21.63	—			49.3	339.7	136.8	11.9	24.5	—	1.6
		5.80	4.80	0.75	7.00	0.55	13	24.2	495.7	30.2	20.1	73.1	1,140	28.0
		4.70	3.70	15.13	—	—		47.3	295.1	29.2	20.7	22.2	1,920	1.6